



文化財保護
シンボルマーク

北条町埋蔵文化財報告書32



Hōjō

鳥取県東伯郡北条町

Chonai
町内遺跡発掘調査報告書

第12集



鳥取大学附属図書館



0050277813

2003.3

北条町教育委員会



0.2
j
d

Hōjō
鳥取県東伯郡北条町

Chonai
町内遺跡発掘調査報告書

第12集

2003.3

北条町教育委員会



序 文

現在、各種開発事業が進むなかで、文化に対する意識も高まりつつあることは非常に喜ばしいことあります。そこで社会生活の中で失われてしまった歴史資料を保存しながら公開することが求められています。そのため地域の歴史、文化等の理解意識向上の礎となる文化財を保護、活用していく立場として、本町においても日々努力しているところあります。北条町は、鳥取県の中部地区を流れる天神川左岸に位置する、総面積21kmの小規模な町ですが、北条町遺跡分布図によりますと、丘陵部を中心に640基もの古墳の存在が確認され、埋蔵文化財分布密度は県下最高であります。さらに平野部一帯におきましても当時の繁栄の姿がうかがえる条理遺構が広がっております。しかしながら、現在も未踏査区域が広範囲に及ぶことから、実際の遺跡件数はその倍になるものと思われ、この豊富な資源を地域文化に生かし、後世に伝えていくことが私たちの責務であると考えております。

今回の調査は北条町米里地区で行われる土砂の採取事業、北条町曲地区と大栄町穗波地区で行われる県営穗波地区ため池等整備事業、そして北条町弓原地区で行われる一般国道313号（北条倉吉道路）工事に伴い、工事予定地内の遺跡を確認するための試掘調査及び地質調査であります。北条町教育委員会が主体となり、事業主体者をはじめ、地元関係者と綿密な連絡を取り合い調査を進めてまいりました。

調査にあたっては、鳥取県教育委員会文化課及び鳥取県埋蔵文化財センターのご指導はもとより、地元作業員、その他調査関係者各位には多大なるご尽力をいただき、深く感謝申し上げる次第でございます。

これを契機としたとして、地域の生活文化水準向上に資する文化財の保護に一層力を注いでいく所存でありますので、今後とも各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

2003(平成15)年3月

北条町教育委員会
教育長 吉田俊夫

例　　言

1. 本報告書は、平成14年度、鳥取県東伯郡北条町教育委員会が国と県から補助金を受けて実施した「町内遺跡発掘調査事業」の報告書である。
2. 今年度の調査は、鳥取県東伯郡北条町弓原字中浜、米里字大谷、曲字稻干場において、トレンチ及び地質調査による試掘調査を行い本報告書を作成した。
3. 本書の執筆、編集は福庭克展が行った。
4. 遺構の実測、図面作成、写真撮影は調査に携わった全員の協力により清水直樹・福庭克展が行った。
5. 第3章-3「弓原地区地質調査」は北条町教育委員会が株式会社ウエスコに委託したものもとに作成した。
6. 本書に使用した方位は全て磁北を示す。
7. 図面、写真、出土遺物等は北条町教育委員会が保管している。

本文目次

第1章 調査に至る経過.....	2
第2章 位置と環境.....	3
第3章 調査の概要.....	4
1 米里地区試掘調査.....	4
2 曲地区試掘調査.....	10
3 弓原地区試掘調査に伴う地質調査.....	13
第4章 まとめにかえて.....	17
報告書抄録.....	18

挿図目次

挿図 1	北条町内遺跡分布図.....	1
挿図 2	米里地区調査位置図.....	5
挿図 3 ~ 11	米里地区トレンチ平断面図.....	5 ~ 9
挿図 12	曲地区調査位置図.....	11
挿図 13 ~ 15	曲地区トレンチ平断面図.....	11 ~ 12
挿図 16	弓原地区地質推定平断面図.....	16

図版目次

図版 1	米里地区遠景・米里地区トレンチ4試掘前・米里地区トレンチ9完掘 米里地区トレンチ4完掘
図版 2	曲地区遠景・曲地区トレンチ2完掘・曲地区トレンチ3完掘・弓原地区遠景



A. 米里地区試掘調査地	B. 曲地区試掘調査地	C. 中浜遺跡
1. 曲古墳群	2. 土下古墳群	3. やすみ塚古墳(土下213号墳)
4. 茶臼山古墳群	5. 北尾古墳群	6. 烏古墳群
7. 北尾遺跡	8. 烏遺跡	9. 曲226号墳
10. 船渡遺跡	11. 米里銅鏃出土地	12. 米里第一遺跡
13. 米里第二遺跡	14. 天神川河床遺跡	15. 宇ノ塚遺跡
16. 殿屋敷遺跡	17. 馬場遺跡	18. 用露鼻遺跡
19. 長烟遺跡	20. 茶臼山要害	21. 中浜遺跡
22. 下神1号古墳	23. 曲宮ノ前遺跡	24. 曲第一(岡)遺跡
25. 烏苟山遺跡		

挿図1 北条町内遺跡分布図

第1章 調査に至る経過

今回の調査は、以下にあげる3地域において、それぞれの開発事業に伴い行った。

北条町の南東部に位置する土下山の西側、米里地区の丘陵地において土砂の採取事業に伴う土地造成を行いたいとの連絡が山陰流通センター株式会社から北条町教育委員会にあったため、本工事予定地内における埋蔵文化財の取り扱いについて工事との調整をはかるべく協議を行った。その結果、本工事予定地内周辺には周知の遺跡である米里第一遺跡、米里第二遺跡等が存在するため、トレンチによる試掘調査を実施することになった。

北条町曲地区の南部に広がる丘陵部においては、大栄町穂波地区にまたがり県営穂波地区ため池等整備事業工事を行いたいとの連絡が鳥取県倉吉地方農林振興局からあったため、同様の協議を行った結果、本工事予定地内には周知の遺跡が見られないものの「北条町遺跡分布図」に示されるように曲古墳群が近接することが確認されていることからトレンチによる試掘調査を実施することになった。

また、北条町弓原に所在する砂丘丘陵地周辺において、一般国道313号（北条倉吉道路）工事を行いたいと、鳥取県倉吉地方県土整備局から北条町教育委員会に連絡があったため同様の協議を行った結果、本工事予定地内周辺には「北条町遺跡分布図」に示されるように周知の遺跡である中浜遺跡が存在するため、トレンチ・グリット・断面精査そして地質調査による試掘調査を平成13年に行ったが、遺跡範囲が確定できなかった。今回は遺跡範囲を確定すべく地質調査を行なった。

そこで、文化財保護の立場から双方の事業において工事施工予定期間等と発掘予定箇所、そして調査体制等を考慮しながら調整を図るよう互いに確認しあったうえで、北条町教育委員会は鳥取県教育委員会とも協議を行い、工事予定地内の遺跡の有無、また分布範囲等を確認するため次のように調査団を編成し平成14年5月から11月にかけて、国及び県の補助金を受けて町内遺跡発掘調査を行なった。

平成14年度調査体制

調査主体 北条町教育委員会

教育長 吉田俊夫

調査指導 鳥取県埋蔵文化財センター

調査担当 清水直樹・福庭克展（担当、生涯学習課生涯学習係主事）

文化財保護委員 松本達之・宇田川宏・西村勝義・日置条左エ門・前田明範

事務指導 鳥取県教育委員会文化課

事務担当 清水直樹・福庭克展（担当、生涯学習課生涯学習係主事）

第2章 位置と環境

北条町は、鳥取県中央部に位置する、町域東西5.6km、南北4.7km、総面積20.99km²をはかる小さな町である。東には県内3大河川の一つである一級河川天神川を隔てて羽合町、西は大栄町、南は倉吉市に接し、北に日本海を臨む。

本町の地形は主に砂丘地、丘陵地、平野部の3地域に分けることができる。まず北部に、風光明媚な白砂青松が続き、東西約1.2km、南北約1.5kmの規模で、大栄町から羽合町にまたがって広がる北条砂丘があり、ここでは、ぶどう、ながいもなどの砂丘地農業が行われている。南部には、倉吉市と二分しているながらかな丘陵で標高70mの土下山、それと標高171mの鞠ヶ家山が位置する丘陵部があり、梨、柿などの果樹栽培が盛んに行われている。そして、これらに挟まれて位置する北条平野は、天神川によって上流から運ばれてきた土砂が堆積することで形成された沖積平野で、高低差が少なく平坦な地域で古くから北条田園と呼ばれている地域である。

ここで、本町の遺跡分布状況を砂丘地、丘陵地、平野部の地域別にみてみる。

砂丘地では、隣町の羽合町の、砂丘の固定化と形成時期を決定するクロズナ層から、古墳時代の超一流の砂丘遺跡である、長瀬高浜遺跡が発見されている。本町においても、江北浜北野神社付近の河川工事の際に土師器、須恵器、土馬、銅鏡、鏡片などが出土し、下神及び弓原浜の砂採取場からは、弥生式土器や土師器片が出土していることから、砂丘地は弥生時代から古墳時代にかけて、人々の生活の場であったことがうかがえる。

次に、丘陵地では茶臼山古墳群、土下古墳群、北尾古墳群、島古墳群、曲古墳群など約60基が存在する県下有数の古墳密集地である。なかでも、土下古墳群に含まれる210号墳及び213号墳からは、全国的にも貴重な鹿車輪、鹿の子模様の入った人物埴輪が出土している。このことから、古墳時代に当地の繁栄した姿がうかがえる。

最後に砂丘地と丘陵部の間に位置する平野部では、昭和27年の北条川改修工事の際に発見された島遺跡があり、縄文時代前期から晩期にまたがる土器をはじめ、石器、ニホンシカやイノシシを主とした動物骨格片が発見されている。また、対岸に位置する米里船渡遺跡でも、周辺の畠から縄文土器片、水田下よりひきりうす、住居の用材とみられる木製品が検出されている。平野部と丘陵部の境界にあたる地域に位置する島、船渡の両地区において、漁業狩猟が当時の主な生活手段であったことは、貝塚、丸木船の存在のほか、北条平野が当時、縄文海進によってラグーンが形成されており、このラグーンに面した湖岸に当地域が位置していた事実からもあてはめることができよう。

今回調査を行った米里、曲、弓原の各地区はいずれも周知の遺跡に近接しており、地域の歴史的背景を知る上で、重要な位置を占めるが、町内に眠っている多くの遺跡のうち調査を終えたところは未だごくわずかであり、詳しい歴史的環境の解明はこれからである。

第3章 調査の概要

1 米里地区試掘調査

調査地点 北条町米里字大谷

調査期間 平成14年5月10日～6月12日

調査面積 185.91m²

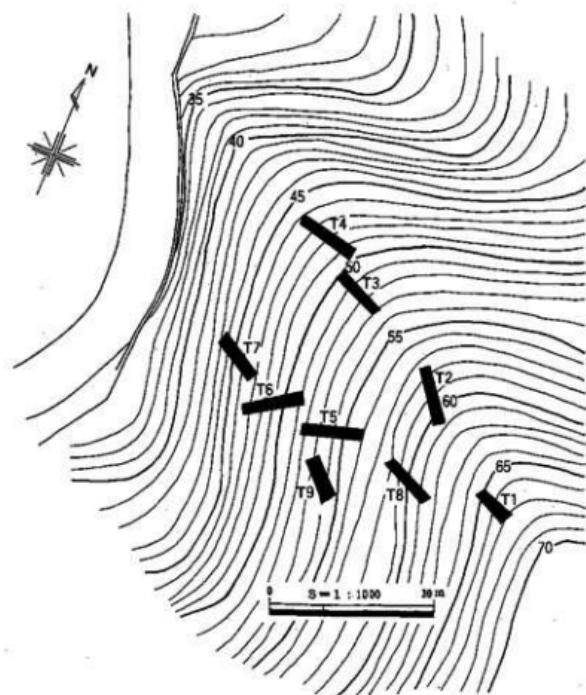
調査概要 工事予定地は、北条町米里部落の東側に隣接する土下山南西部丘陵地に位置し、現況は山林である。付近には周知の遺跡である米里第一遺跡が存在し、現況が雜木等で遺跡の有無を確認しがたい状況であったため、遺跡の有無を明確にする必要があると考え、試掘調査を実施することとなった。

今回の調査は、工事予定地内にみられる丘陵部途中の、標高約43m～67mをはかる尾根上及び尾根の南西部丘陵地に長さ約7m～11m、幅約2mのトレンチ9本を設定し、遺構、遺物の確認を行った。

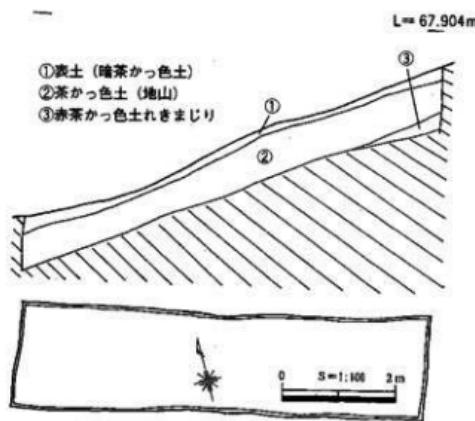
その結果、すべてのトレンチから遺構、土器片等の遺物はまったくみられなかった。各トレンチの規模・面積等について、以下の表1にまとめた。

〈表1 米里地区トレンチ一覧表〉

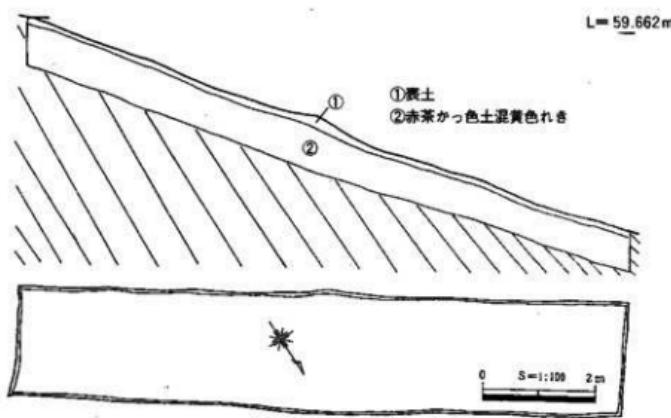
トレンチ番号	地区	規模(m)	面積(m ²)	出土遺物	遺構
T 1	米里字大谷	2.0×7.4	14.8	なし	なし
T 2	米里字大谷	2.0×10.7	21.4	なし	なし
T 3	米里字大谷	2.0×10.3	20.6	なし	なし
T 4	米里字大谷	2.0×10.9	21.8	なし	なし
T 5	米里字大谷	2.0×10.0	25.0	なし	なし
T 6	米里字大谷	2.0×10.9	21.8	なし	なし
T 7	米里字大谷	2.0×9.7	22.31	なし	なし
T 8	米里字大谷	2.0×10.3	20.6	なし	なし
T 9	米里字大谷	2.0×8.8	17.6	なし	なし



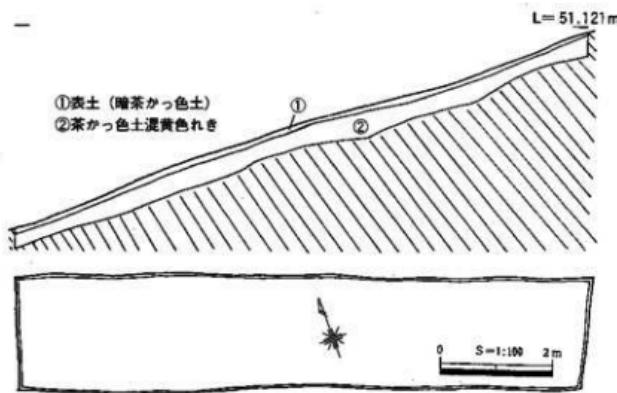
挿図2 米里地区トレンチ位置図



挿図3 米里地区トレンチ1 平断面図

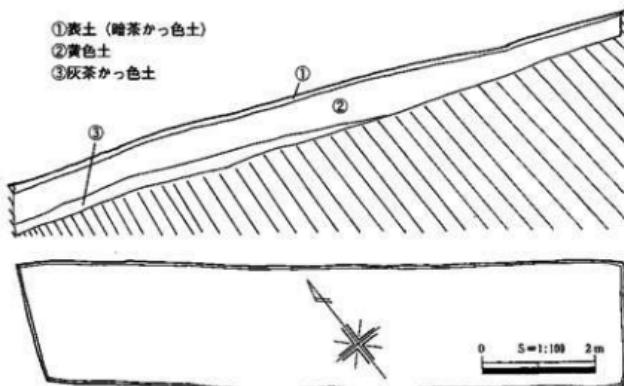


挿図4 米里地区トレンチ2 平断面図



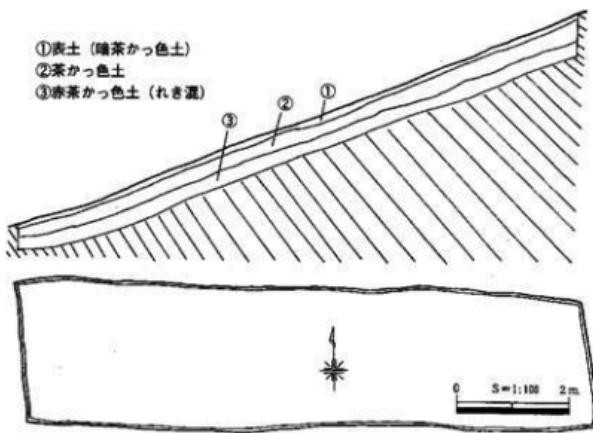
挿図5 米里地区トレンチ3 平断面図

L = 48.473m



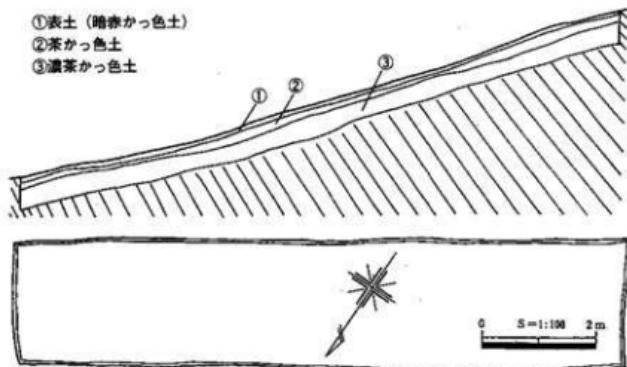
挿図6 米里地区トレンチ4 平断面図

L = 53.797m



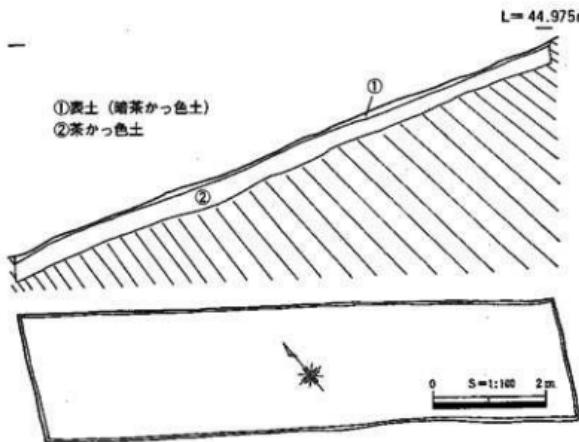
挿図7 米里地区トレンチ5

L = 48.468m



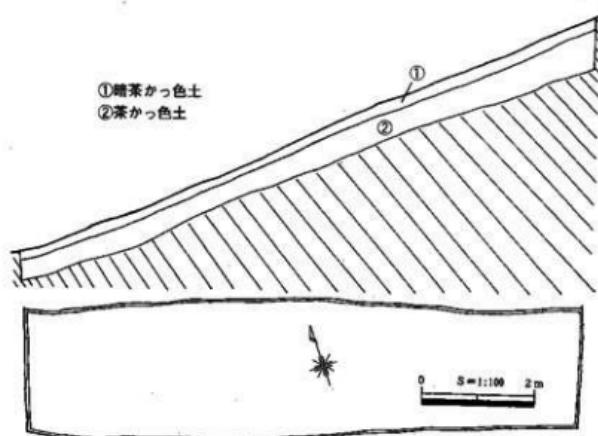
挿図8 米里地区トレンチ6 平断面図

L = 44.975m



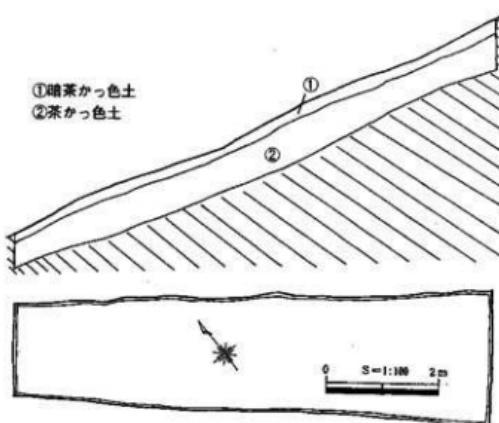
挿図9 米里地区トレンチ7 平断面図

L = 60.992m



挿図10 米里地区トレンチ8 平断面図

L = 54.019m



挿図9 米里地区トレンチ7 平断面図

2 曲地区試掘調査

調査地点 北条町曲字稻干場

調査期間 平成14年6月12日～6月28日

調査面積 60.4 m²

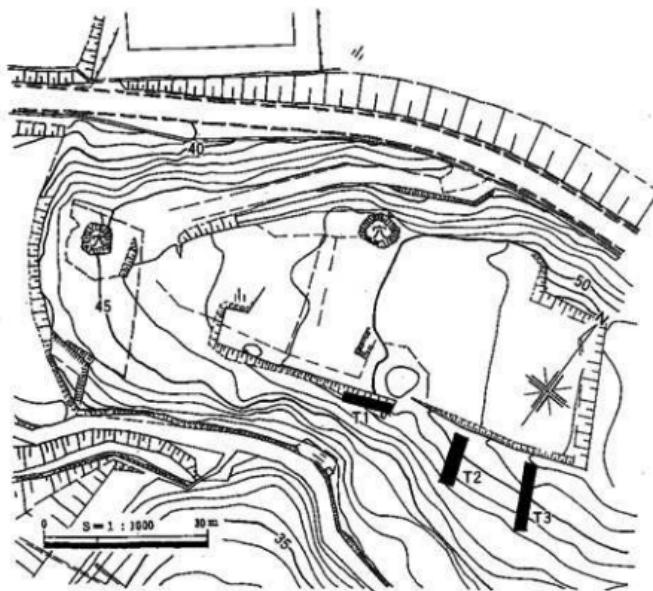
調査概要 県営穂波地区ため池等整備事業の工事予定地は北条町南西部丘陵地に所在する船ヶ家山の南西端に位置し、大栄町穂波地区と北条町曲地区にまたがる。現況は、畠地及び山林となっている。本工事予定地の周辺には周知の遺跡である北尾古墳群が確認されている。また、事前の現地踏査により、本工事予定地周辺の表土から、遺物の散布が確認されたため、試掘調査を実施することとなった。

そこで、今回の調査は、工事予定地内にみられる船ヶ家山丘陵部途中の、標高約50mをはかる丘陵平坦地を中心長さ約9m～12m、幅約2mのトレンチを3本設定し、遺構及び遺物の確認を行った。

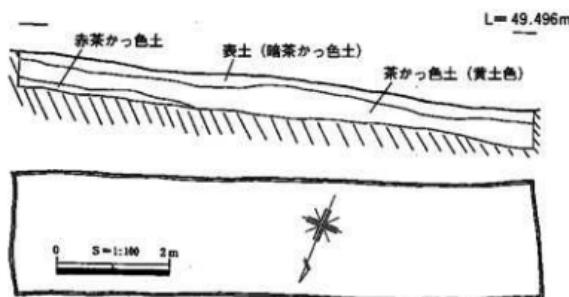
その結果、今回の試掘調査では、すべてのトレンチから遺構、土器片等の遺物はまったくみられなかった。各トレンチの規模・面積等について、以下の表2にまとめた。

〈表2 曲地区トレンチ一覧表〉

トレンチ番号	地区	規模(m)	面積(m ²)	出土遺物	遺構
T 1	曲字稻干場	2.0× 9.25	18.5	なし	なし
T 2	曲字稻干場	2.0× 9.0	18.0	なし	なし
T 3	曲字稻干場	2.0×11.95	23.9	なし	なし

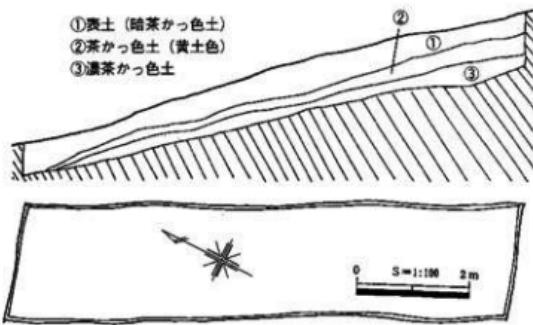


挿図 12 曲地区 トレンチ位置図



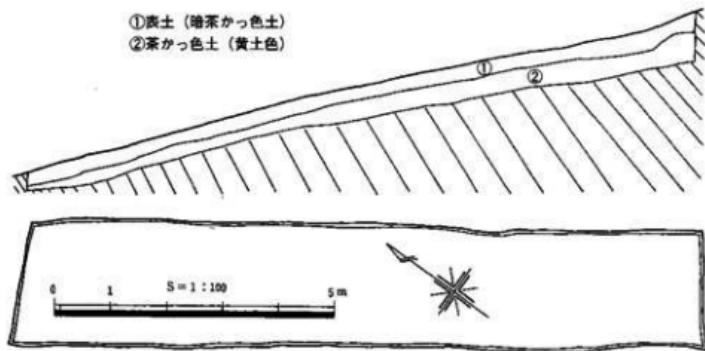
挿図 13 曲地区 トレンチ 1 平断面図

L = 51.670m



插図 14 曲地区 トレンチ 2 平断面図

L = 52.824m



插図 15 曲地区 トレンチ 3 平断面図

3 弓原地区地質調査—株式会社ウエスコによる地質調査報告書をもとに—

調査地点 北条町弓原字中浜

調査期間 平成14年9月24日～11月29日

(1) 調査概要

一般国道313号（北条倉吉道路）工事の工事予定地は、北条町弓原浜の西隣に位置する丘陵地を南北に縦断する。この丘陵地は現況が山林となっており、以前この地で行われた砂利採取の際に遺構及び遺物が確認されていたため、「北条町遺跡分布図」に周知の遺跡である中浜遺跡として示されている。このことから平成13年度に、トレンチ2本、グリット2カ所、精査断面4面を設定し遺構、遺物の確認を行った。また遺跡の範囲を確認するため、ボーリングによる地質調査を5地点行った。その結果、グリットから複数のピットを2面にわたって検出、精査断面からは住居跡と思われる遺構1棟のほか土構を検出した。遺物については、弥生時代終末期から古墳時代後期の遺物細片が確認された。しかし、遺跡の範囲を確認するにはいたらなかった。

そこで今回は平成13年度の調査で明らかになった遺跡と関係の深い火山灰質土層並びに遺跡の範囲を確認するため、ロータリー式ボーリングマシンを用い、地表から深度7mまでを対象とし「挿図16 地質推定平断面図」のとおり2地点において調査を実施した。

(2) 地質構成

当該地盤における地質構成は、貸与資料¹⁾及び既存資料²⁾と併せて検討すると「挿図16 地質推定平断面図」のように区分される。また、構成する地層は表3のようにまとめられる。

今回の調査で確認された地層は、上部砂質土層2まであり、すべて完新世に形成された地層と推察される。大山火山灰などによる火山灰質土層の下位層は、更新世に形成された古砂丘と想定されているが、当該地盤で確認された火山灰質土層は水成などによる2次堆積物と考えられるため、火山灰質土層の下位にある砂層も完新世の新砂丘として評価した。

注1) 貸与資料

鳥取県倉吉地方県土整備局：一般国道313号（北条倉吉道路）工事「うち地質調査委託（その2）」
推定地質断面図

鳥取県倉吉地方県土整備局：一般国道313号（北条倉吉道路）工事「うち地質調査委託（その2）」
推定地質断面図

注2) 既存資料

北条町：一般国道313号（北条倉吉道路）工事に係る埋蔵文化財発掘調査に伴う地質調査業務報告書
地質推定断面図、(株)ウエスコ、平成13年12月

〈表3 地質構成一覧表〉

地質時代	地層名	記号	層厚(m) ³⁾	構成土質 ⁴⁾
第四紀 完新世	最上部粘性土層	Umc	2.30程度	砂質粘土
	最上部砂質土層	Ums	0.50~5.00	(シルト・疊混じり)砂
	上部粘性土層	Uc	1.49以下	(砂混じり)粘土、有機質土他
	火山灰質土層	L	3.90程度以下	(有機物・疊混じり)ローム他
	中部砂質土層2	Us2	0.36以上	(粘土混じり・シルト質)砂他
	上部砂質土層1	Us1	-	砂

注3) 層厚は今回の調査で確認されたもの(未確認の地層については貸与資料から読みとったもの)。

注4) 貸与資料の構成土質は、地層推定断面図から読みとったもの。

各地層の分布状況は「図16 地質推定断面図」を参考に次のようにまとめられる。

①最上部粘性土層（以下、Umc層と記す）

Umc層は貸与資料のみで確認されており、推定断面ラインD-1付近以南に分布しているとみられる。

②最上部砂質土層（以下、Ums層と記す）

Ums層は細～中砂で構成されており、推定断面ラインA-7付近まで及びC-4付近～D-1付近まで層厚4～5m程度で分布している。ただし、B-7付近を頂点とする地形の高まり部では、層厚が頂点に向かって漸減する傾向がみられる。

③上部粘性土層（以下、Uc層と記す）

Uc層は貸与資料及び既存資料のみで確認されており、有機質土や粘土などで構成される旧耕作土と考えられる。層厚は概ね1m程度で、砂丘の高まりの際の低地部に部分的に分布し、貸与資料等からも明確な連続性は確認されなかった。

ただし、推定断面ラインD-2以南では層厚が南方に向かって漸減する傾向がみられる。

④火山灰質土層（以下、L層と記す）

L層はロームの二次堆積物を主体として構成する。

平成13年度に実施されたトレンチ調査などの結果をふまえると、推定断面ラインA-7前後からB-9付近まで、北東方から南西方向に向かって連続的に分布している。またC-4付近以降は層厚1m程度で連続的に分布している。

ただし、今回の調査地周辺では、西方から東方に向かってL層が下降傾斜していると推察され、B-P-2及びC-2付近の既存資料からは、本層が確認されなかった。

⑤上部砂質土層2（以下、Us2層と記す）

Us2層は概ね細～中砂で構成されており、本層の底部は標高-4m付近でほぼ水平に分布している。

なお、推定断面ラインA-3付近の標高1m近辺にみられる砂層は貸与資料に地層名が明記

されておらず、本層もしくはUe層の可能性も考えられる。

⑥上部砂質土層1（以下、Us1層と記す。）

Us1層は貸与資料のみで確認されており、今回の調査深度ではみられなかった。

（3）火山灰質土層（L層）について

今回の調査では、BP-1のみからL層が確認された。

貸与資料及び既存資料では、クロスナ層とL層を区別していたが、クロスナ層が推定断面ラインA-8北側のボーリングデータのみでしか確認されていないことや、平成13年度以降の調査で、該当地付近に明確なクロスナ層がみられなかったことから、クロスナ層とL層とを合わせてひとつのL層と評価した。

今後の遺跡調査としては、L層の出現深度、分布状況などを十分考慮したうえで、トレーニング調査の位置を絞ることが有効と考えられる。

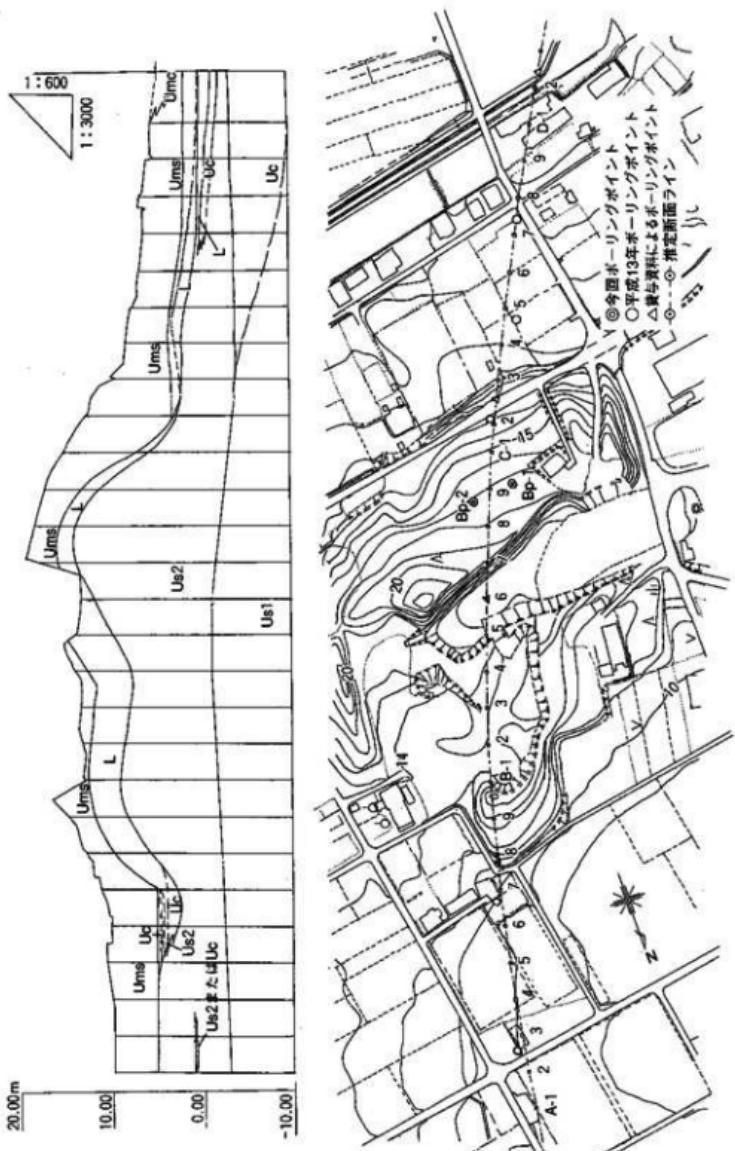


図16 矢原地区地質指定平断面図

第4章 まとめにかえて

平成14年度は、一般国道313号（北条倉吉道路）工事に伴い、弓原字中浜において地質ボーリング調査による遺跡の範囲を確認し、米里字大谷地区においてトレンチ9本、県営穂波地区ため池等整備事業に伴い、曲字稻干場地区においてトレンチ3本を設定し、遺跡の有無を確認した。

弓原字中浜の砂丘地丘陵部一帯は、すでに中浜遺跡が周知の遺跡として存在することが知られている。今回の工事予定地は、中浜遺跡の推定範囲内を継続することから、平成13年度に工事予定地内にトレンチ2本・グリット2カ所・精査断面4カ所を設定し調査を実施した。その結果、土層中から2面にわたってその性格は不明ながら土構及びピット、そして多量の土器類細片を検出した。また、砂層直下に存在する茶褐色土層を掘り込んだ住居跡と考えられる遺構1棟、性格不明の土構7箇所が確認された。地質調査においては、丘陵南北両端部付近に深度7mの地質ボーリングポイント5カ所を設定し地質の確認を行った。その結果、いずれのボーリングポイントでもクロスナ層並びに、遺跡が存在するであろう安定した層を確認できなかった。そこで平成14年度は遺跡の範囲を確認するため、南部丘陵地の東西両端部付近に深度7mの地質ボーリングポイント2カ所を設定し、地質の確認を行った。その結果、西側のボーリングポイント1のみから、遺構面が存在すると考えられる火山灰質土層を確認した。

平成14年度と平成13年度の調査結果を併せて考察すると、南北それぞれの丘陵地に設定したボーリングポイントにおいて、トレンチ・グリット及び断面の調査により遺跡の存在が確認されていることから中浜遺跡の存在する範囲がしづらされる。

今回は、周知の遺跡である中浜遺跡の推定範囲内において試掘調査を実施し遺跡の存在を確認するに至ったが、未だ遺跡の性格そして全体像がつかめていないため、これらを明らかにしていくためには今後予定されている発掘調査の成果が期待される。

また、周知の遺跡に近接している米里字大谷地区においてトレンチ9本、県営穂波地区ため池等整備事業に伴う曲字稻干場地区においてトレンチ3本をそれぞれ設定し、試掘調査を実施したところ、いずれの工事予定地からも遺構及び遺物の存在は確認できなかった。しかしながら、本町には640基にものぼる古墳、また遺跡が存在しており、そのほとんどが調査されていないことから、これから山野の開発に伴い発掘調査を行っていくうえで、本町またその周辺地域の古代人の生活・文化がよりいっそう解明されればと願ってやまない。

報告書抄録

ふりがな	ちょうないいせきはくつちょうさほこくしょだい12しゅう						
書名	町内遺跡発掘調査報告書第12集						
副書名							
卷次	第12集						
シリーズ名	北条町埋蔵文化財報告書						
シリーズ番号	32						
編著者名	福庭克展						
編集機関	北条町教育委員会						
所在地	〒689-2111 鳥取県東伯郡北条町土下112 TEL 0858-36-5571						
発行年月日	西暦2003年3月日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 °'\"	東經 °'\"	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
米里大谷	鳥取県東伯郡 北条町米里字 大谷	31366	35° 28' 32"	133° 49' 05"	2000.5.10 ~6.12	185.91	土砂採取事 業に伴う土 地造成
曲字稻干場	鳥取県東伯郡 北条町曲字稻 干場	31366	35° 28' 19"	133° 47' 15"	2002.6.12 ~6.28	60.4	県営穂波地 区ため池等 整備事業工 事
中浜遺跡	鳥取県東伯郡 北条町弓原字 中浜	31366	35° 29' 13"	133° 48' 59"	2002.9.24 ~11.29	地質ボーリ ング2本	一般国道 313号(北 条倉吉道路) 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
米里大谷	なし	なし	なし	なし	なし		
曲字稻干場	なし	なし	なし	なし	なし		
中浜遺跡	遺物散布地	弥生時代終末期 ~古墳時代	住居跡 土	弥生土器片 土師器片 須恵器片	なし		

図版

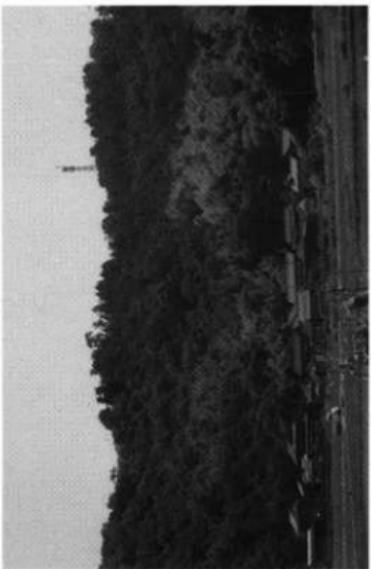
図版1



米里地区トレンチ4試掘前（東から）



米里地区トレンチ4試掘（東から）

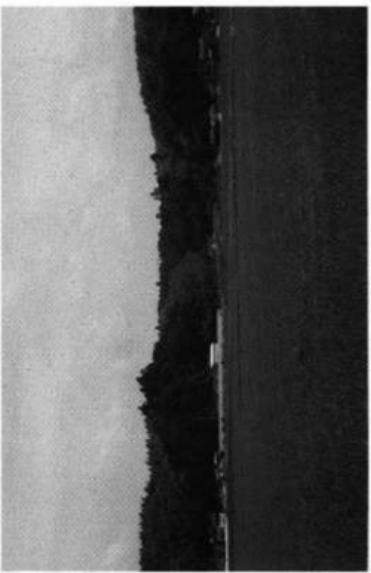


米里地区遠景（西から）



米里地区トレンチ9試掘

図版2



平成15年3月印刷
平成15年3月発行

**北条町埋蔵文化財報告書32
町内遺跡発掘調査報告書第12集**

編集 北条町教育委員会
発行 烏取県東伯郡北条町土下112
印刷 有限会社矢積印刷
製本 烏取県倉吉市宮川町2-36